第 65 回　日本生殖医学会学術講演会
O-083
WEB 開催　2020.12.3-12.23

凍結融解胚移植決定時の子宮内膜厚は癒着胎盤発症に寄与する因子となるか

太田　志代[1]、中岡　義晴[1]、門上　大祐[1]、勝　佳奈子[1]、山内　博子[1]、
北山　利江[1]、松岡　麻理[1]、中村　春樹[1]、森本　義晴[2]
1.IVF なんばクリニック、2.HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】
凍結融解胚移植決定時の子宮内膜厚が癒着胎盤発症に寄与する因子となるか検討した。

【方法】
2011 年から 2019 年までに当院で凍結融解胚移植症を行った症例の中で癒着胎盤を発症した群と、妊娠時の年齢、帝王切開既往でマッチングを行い選出した対照群と比較対照研究を行った。胚移植決定時の子宮内膜厚を比較し、発症予測因子となるか検討した。また移植決定時の内膜厚と、癒着胎盤発症に寄与すると考えられる他の因子（経妊数、経産数、子宮奇形、子宮筋腫、筋腫核出術既往、掻爬術既往、侵襲操作を伴う子宮鏡手術既往）と共に、発症に寄与する有意な因子であるか解析した。

【結果】
発症群 74 例、対照群 222 例。発症群の移植決定時子宮内膜厚の平均は 9.8 ㎜（7.0-13.8）、対照群は 10.4 ㎜（8.0-15.6）であり、発症群の内膜は有意に薄かった（P＝0.013）。ROC 解析では子宮内膜厚の AUC 値は 0.61（P＜0.01）、カットオフ値は 10.1 ㎜であった。
単変量解析で経妊回数（OR1.84、P＝0.025）、子宮奇形（OR12.63、P＜0.01）、子宮鏡手術既往（OR3.72、P＜0.01）、移植決定時の子宮内膜厚＜10.1 ㎜（OR2.73、P＜0.01）が、
条件付きロジスティック回帰分析では子宮奇形（aOR 2.22、P＝0.027）、子宮鏡手術既往（aOR 3.73、P＜0.01）、子宮内膜厚＜10.1 ㎜（aOR 2.63、P＜0.01）が癒着胎盤発症に寄与する有意な因子と検出された。

【結論】
凍結融解胚移植決定時の子宮内膜の厚さは癒着胎盤発症リスクの予測因子となる可能性がある。また発症に寄与する因子に子宮鏡手術既往や子宮内膜厚が挙げられたことより、癒着胎盤の発生機序には何らかの子宮内膜因子の関与が推測された。